

北朝鮮ニュース：中国外交部は金正恩をどのように評価しているか
漢和防務評論 20180106(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

南北朝鮮の会談がどのような結果になるか、日米中露がそれぞれの立場から様子を伺っていますが、過去の歴史を見れば、”瓢箪から駒”が出ることはないでしょう。

両国ともオリンピックは国際的な宣伝の機会なので、ぶち壊しはしないでしよう。或いは、北朝鮮が韓国に対し受け入れ不能な譲歩を要求し、会談を意図的に決裂させ、オリンピック開催までにひと波瀾あるかもしれません。

今日の記事は、中国外交部が金正恩をどう評価しているかの記事です。

KDR 北京特集：中国外交部の最高上層部は、最近中国外交部の金正恩に対する外交政策を伝達した。これは極めて興味ある内容である。中国権威筋は **KDR** に対し次のように述べた：上層部の全てが金正恩は極めて扱いにくいと考えており、懐柔しようとしてあらゆる手段を尽くした、と。中国の金正恩政権に対する評価は以下のとおりである：

1. 北朝鮮の国内情勢は全体的に安定している。しかし隠れた問題は依然として存在している。金正恩が政権を握って以降、上層部の頻繁な人事異動と宣伝教育によって、強固な”金正恩唯一の指導体制”を構築した。国内政治は日増しに安定している。4年間の内部粛清を経て、金正恩の”唯一の指導体制”は確立した。

2. 労働党を核心とする指導体制が強化された。全体的に見て、金正恩の政治的地位は強化された。しかし北朝鮮の利益集団間の競争が激化し、現在は市場化現象が民衆の思想に影響を与え、北朝鮮政治は内部に問題を抱えるようになった。

この2年間、北朝鮮は”北朝鮮式経済管理方法”を全面的に実施した。その核心は、国家経済の発展と個人の利益を結びつけることにある。経済改革による配当を逐次行き渡らせ、経済全体が明らかに好転している。しかし北朝鮮経済は二つの問題に直面している：一つは、経済発展に対する長期計画がなく、思想と制度のメカニズムが短期的に改善されることは期待できない。経済改革においても同じことを繰り返す可能性がある。対策としては、

○米朝シンガポール会談等を挙行し、米朝関係を安定させる：

○高官の訪露により経済協力等の方式を利用し、露朝関係を発展させる：

○”拉致”問題を利用し日朝関係を打開する。

これらの政策を採用すれば、斬新な外交姿勢が現出する。

北朝鮮が国際的孤立状態から抜け出すことは、強大な与論の基礎を提供することになる。

しかしこれと同時に、核問題、安保理制裁等、厳しい制約があり、北朝鮮の”外交攻勢”は根本的に成功していない。

現在、北朝鮮の全ての核開発は国際的な監視監督を受けておらず、技術的に見れば、核保有活動を阻害するものはない。今後、継続して中距離、長距離の運搬手段及び核とミサイルの適合実験を継続する可能性がある。核威力の向上と実戦化を図ることは、将来北朝鮮の核威嚇により、この地域を再度緊迫化させる可能性がある。

KDR は次のように考える：上述の基本的情勢判断は正しい。すなわち金正恩体制はおおむね安定しており、同時に、内部の利益集団間の闘争も継続している。金正恩はこれら利益集団内部の弱点を有効に利用しつつある。彼は明らかに父親よりも聡明であり、指導能力もより高い、と。

また **KDR** は、中距離、長距離弾道ミサイル、水爆実験が成功するに従って、北朝鮮の存在が世界の戦略バランスに巨大な影響を与えるようになる、と考える。その影響は以下の通りである：

1. 核兵器を政治的切り札として、金正恩は自己の政権存続問題を基本的に解決する。次に、第四代の統治に引き継ぐ可能性が極めて高い。核を保持したままの北朝鮮の崩壊は誰も望まない。
2. 伝統的な”北朝鮮崩壊”への期待に疑問が提示され、多くの人は消極的ながら北朝鮮の安定を期待する。そうでなければ、崩壊後の北朝鮮の核と弾道ミサイルの拡散問題は如何に処理すればよいのか？
3. 北朝鮮の核兵器、核ミサイルに対しては、どのような抑制理論を形成すればよいのか？どのような状況下で北朝鮮は米国本土に核攻撃を行うのか？これらの新たな問題は未だ研究されていない。
4. 北朝鮮は、引き続き固体燃料の中距離、長距離戦略核ミサイルを開発するのか？**MIRV** 弾頭も開発するのか？
5. 北朝鮮は、長距離弾道ミサイル、核弾頭技術を輸出するのか？これは新たな地域紛争を引き起こす可能性がある。

以上